

2024 年度 滋賀医科大学医学部皮膚科研修プログラム

A. 専門医研修の教育ポリシー：

研修を終了し所定の試験に合格した段階で、皮膚科専門医として信頼され安全で標準的な医療を国民に提供できる十分な知識と技術を獲得できることを目標とする。医師としての全般的な基本能力を基盤に、皮膚疾患の高度な専門的知識・治療技能を修得し、関連領域に関する広い視野をもって診療内容を高める。皮膚科の進歩に積極的に携わり、患者と医師との共同作業としての医療の推進に努める。医師としてまた皮膚科専門医として、医の倫理の確立に努め、医療情報の開示など社会的要望に応える。

B. プログラムの概要：

本プログラムは滋賀医科大学医学部皮膚科を研修基幹施設として、淡海医療センター皮膚科、公立甲賀病院皮膚科、彦根市立病院皮膚科、国立病院機構東近江総合医療センター皮膚科、東近江敬愛病院皮膚科、京都府立医科大学附属病院皮膚科、近江八幡市立総合医療センター皮膚科、市立大津市民病院皮膚科、京都大学附属病院皮膚科、大津赤十字病院皮膚科、長浜赤十字病院皮膚科、地域医療機能推進機構中京病院皮膚科、地域医療機能推進機構星ヶ丘医療センター皮膚科、国立病院機構鹿児島医療センター皮膚腫瘍科・皮膚科を研修連携施設として、また、地域医療機能推進機構滋賀病院皮膚科、日野記念病院皮膚科を研修準連携施設加えた研修施設群を統括する研修プログラムである。なお、本プログラムは各研修施設の特徴を生かした複数の研修コースを設定している。（項目 J を参照のこと）

C. 研修体制：

研修基幹施設：滋賀医科大学医学部皮膚科

研修プログラム統括責任者（指導医）：藤本徳毅（診療科長）

専門領域：膠原病、皮膚外科

指導医：高橋聡文 専門領域：遺伝性皮膚疾患 アレルギー性疾患

指導医：山口明彦 専門領域：角化症

施設特徴：専門外来として、水疱症外来、乾癬外来、アレルギー外来、脱毛外来、皮膚腫瘍外来などを設けており、外来患者数は 1 日平均 80 名にのぼり、豊富な経験を積むことが可能。滋賀県の癌治療拠点病院の皮膚科であり、県のがん登録件数情報によれば滋賀県がん治療件数の約 37%を当院が占める。中央手術室年間手術件数は、約 440 名を超える。また、研修連携施設とは定期的な指導医の派遣や連携病院からの定期的な研修受け入れを通じた独自のシステムを構築しており、適宜疾患に応じた指導医からの指導を受けることが可能とな

っている。研修研究の面では、いくつかのグループを作り、指導医との連携を強め、多様な研究結果を創出している。

研修連携施設：社会医療法人誠光会淡海医療センター皮膚科

所在地：滋賀県草津市矢橋町 1660

プログラム連携施設担当者（指導医）：寺村和也（副部長）

研修連携施設：公立甲賀病院皮膚科

所在地：滋賀県甲賀市水口町松尾 1256 番地

プログラム連携施設担当者（指導医）：山本文平（部長）

研修連携施設：彦根市立病院皮膚科

所在地：滋賀県彦根市八坂町 1882 番地

プログラム連携施設担当者（指導医）：古田未征（部長）

研修連携施設：国立病院機構東近江総合医療センター皮膚科

所在地：滋賀県東近江市五智町 255 番地

プログラム連携施設担当者（指導医）：鵜飼佳子（医長）

研修連携施設：特定医療法人敬愛会東近江敬愛病院皮膚科

所在地：滋賀県東近江市八日市東本町 8 番 16 号

プログラム連携施設担当者（指導医）：北村真人（医長）

研修連携施設：京都府立医科大学附属病院皮膚科

所在地：京都市上京区河原町広小路梶井町 465

プログラム連携施設担当者（指導医）：加藤則人（診療部長）

研修連携施設：近江八幡市立総合医療センター皮膚科

所在地：滋賀県近江八幡市土田町 1379

プログラム連携施設担当者（指導医）：金久史尚（副部長）

研修連携施設：市立大津市民病院皮膚科

所在地：滋賀県大津市本宮二丁目 9-9

プログラム連携施設担当者（指導医）：貫野 賢（診療部長）

研修連携施設：京都大学医学部皮膚科

プログラム連携施設責任者（指導医）：栴島健治（診療科長）
所在地：京都市左京区聖護院川原町 54

研修連携施設：大津赤十字病院皮膚科
所在地：滋賀県大津市長等 1 丁目 1-35
プログラム連携施設担当者（指導医）：笹橋真紀子（副部長）

研修連携施設：長浜赤十字病院皮膚科
所在地：滋賀県長浜市宮前町 1 4－7
プログラム連携施設担当者（指導医）：川端紀子（部長）

研修連携施設：独立行政法人 地域医療機能推進機構中京病院皮膚科
所在地：愛知県名古屋市南区三条 1-1-10
プログラム連携施設担当者（指導医）：小寺雅也（部長）

研修連携施設：独立行政法人 地域医療機能推進機構星ヶ丘医療センター皮膚科
所在地：大阪府枚方市星丘 4-8-1
プログラム連携施設担当者（指導医）：立花隆夫（部長）

研修連携施設：独立行政法人 国立病院機構鹿児島医療センター
所在地：鹿児島県鹿児島市城山町 8 番 1 号
プログラム連携施設担当者（指導医）：松下茂人（部長）

研修准連携施設：医療法人社団昂会日野記念病院皮膚科
所在地：滋賀県蒲生郡日野町上野田 200-1

研修準連携施設：独立行政法人 地域医療機能推進機構滋賀病院皮膚科
所在地：滋賀県大津市富士見台 16-1

研修基幹施設には、専攻医の研修を統括的に管理するための組織として以下の研修管理委員会を置く。研修管理委員会委員は研修プログラム統括責任者、プログラム連携施設担当者、指導医、他職種評価に加わる看護師等で構成される。研修管理委員会は、専攻医研修の管理統括だけでなく専攻医からの研修プログラムに関する研修評価を受け、施設や研修プログラム改善のフィードバックなどを行う。専攻医は十分なフィードバックが得られない場合には、専攻医は日本専門医機構皮膚科領域研修委員会

へ意見を提出できる

研修管理委員会委員

委員長：藤本徳毅（滋賀医科大学病院皮膚科診療科長）

委員：高橋聡文（滋賀医科大学病院皮膚科講師）

：山口明彦（滋賀医科大学病院皮膚科助教）

：船富奈々（滋賀医科大学病院皮膚科病棟看護師長）

：寺村和也（社会医療法人誠光会淡海医療センター皮膚科副部長）

：山本文平（公立甲賀病院皮膚科部長）

：古田未征（彦根市立病院皮膚科部長）

：鵜飼佳子（国立病院機構東近江総合医療センター皮膚科医長）

：北村真人（特定医療法人敬愛会東近江敬愛病院皮膚科医長）

：加藤則人（京都府立医科大学付属病院皮膚科診療部長）

：金久史尚（近江八幡市立総合医療センター皮膚科副部長）

：貫野 賢（市立大津市民病院皮膚科診療部長）

：椛島健治（京都大学附属病院皮膚科診療科長）

：笹橋真紀子（大津赤十字病院皮膚科副部長）

：川端紀子（長浜赤十字病院皮膚科部長）

：小寺雅也（地域医療機能推進機構中京病院皮膚科部長）

：立花隆夫（地域医療機能推進機構星ヶ丘医療センター皮膚科部長）

：松下茂人（国立病院機構鹿児島医療センター）

前年度診療実績：

皮膚科

	1 日平均外来 患者数	1 日平均入院 患者数	局所麻酔 年間手術数 (含生検術)	全身麻酔年間 手術数	指導医数
滋賀医科大学	76.6 人	18.1 人	1177 件	105 件	3 人
淡海医療センター	38.0 人	4.5 人	80 件	1 件	1 人
公立甲賀病院	48.3 人	2.5 人	143 件	0 件	1 人
彦根市立病院	33.3 人	2.3 人	23 件	0 件	1 人
日野記念病院	22.1 人	1.2 人	103 件	0 件	1 人
東近江総合医療センター	22.1 人	3.6 人	178 件	4 件	1 人
東近江敬愛病院	50.1 人	14.8 人	166 件	0 件	1 人
京都府立医科大学附属病院	98.2 人	9.7 人	716 件	92 件	8 人
近江八幡市立総合医療センター	51.8 人	5.8 人	302 件	8 件	2 人

市立大津市民病院	40.0 人	5.4 人	507 件	1 件	1 人
京都大学附属病院	107.5 人	16.4 人	208 件	98 件	10 人
大津赤十字病院	45.4 人	2.2 人	148 件	0 件	1 人
長浜赤十字病院	44.2 人	2.8 人	298 件	0 件	1 人
中京病院	86.0 人	11.6 人	222 件	8 件	2 人
星ヶ丘医療センター	34.0 人	3.6 人	130 件	17 件	1 人
鹿児島医療センター	33.1 人	7.7 人	1236 件	168 件	1 人
合計	802.0 人	106.8 人	6165 件	318 件	41 人

D. 募集定員：7 人

E. 研修応募者の選考方法：

書類審査、小論文および面接により決定する。また、選考結果は、本人あてに別途通知する。なお、応募方法については、応募申請書を滋賀医科大学医師臨床教育センターのホームページ（<https://kensyu.es.shiga-med.ac.jp/kensyu/specialist-offering/>）よりダウンロードし、履歴書と併せて提出すること。

F. 研修開始の届け出：

選考に合格した専攻医は、研修開始年の3月31日までにプログラム登録申請書（仮称）に必要な事項を記載のうえ、プログラム統括責任者の署名捺印をもらうこと。その後、同年4月30日までに皮膚科領域専門医委員会（hifu-senmon@dermatol.or.jp）に通知すること。

G. 研修プログラム 問い合わせ先

滋賀医科大学医学部附属病院皮膚科

藤本 徳毅

TEL：077-548-2233

FAX：077-548-2154

H. 到達研修目標：

本研修プログラムには、いくつかの項目において、到達目標が設定されている。別冊の研修カリキュラムと研修の記録を参照すること。特に研修カリキュラムの p. 26～27 には経験目標が掲示しているので熟読すること。

I. 研修施設群における研修分担：

それぞれの研修施設の特徴を生かした皮膚科研修を行い、研修カリキュラムに掲げ

られた目標に従って研修を行う。

1. 滋賀医科大学医学部皮膚科では医学一般の基本的知識技術を習得させた後、難治性疾患、稀な疾患などより専門性の高い疾患の診断・治療の研修を行う。さらに医師としての診療能力に加え、教育・研究などの総合力を培う。また、少なくとも1年間の研修を行う。
2. 淡海医療センター、公立甲賀病院、彦根市立病院、東近江総合医療センター、東近江敬愛会病院などの研修連携施設では、急性期疾患、頻繁に関わる疾病に適切に対応できる総合的な診療能力を培い、地域医療の実践、病診連携を習得し、滋賀医科大学医学部皮膚科の研修を補完する。これらの連携研修施設のいずれかで、少なくとも1年の研修を行う。希望があれば、研修連携施設である地域医療機能推進機構中京病院では膠原病を、国立病院機構鹿児島医療センター皮膚腫瘍科・皮膚科もしくは地域医療機能推進機構星ヶ丘医療センターでは皮膚外科を重点的に1年の研修を行う。
3. 準連携施設である日野記念病院では指導医不在の一人医長として、概ね1年間の研修を行う可能性がある。一人医長として研修する専攻医は、滋賀医科大学医学部皮膚科の指導医と密に連絡を取り、診療の相談、カンファレンスへの参加を随時行う。両病院共に、一人医長をおいた時には大学から講師以上が月に1-2回指導に行く。

J. 研修内容について

1. 研修コース

本研修プログラムでは、以下の研修コースをもって皮膚科専門医を育成する。

ただし、研修施設側の事情により希望するコースでの研修が出来ないこともあり得る。また、記載されている異動時期についても研修施設側の事情により変更となる可能性がある。

コース	研修 1 年目	研修 2 年目	研修 3 年目	研修 4 年目	研修 5 年目
a	基幹	基幹	連携	連携	基幹
b	基幹	基幹	連携	連携	準連携
c	基幹	連携	基幹	基幹	基幹
d	基幹	基幹	基幹	連携	基幹
e	連携	連携	基幹	基幹	基幹
f	基幹	連携	連携	大学院 (研究)	大学院 (臨床)
g	基幹	連携	準連携	大学院	大学院

				(臨床)	(臨床)
--	--	--	--	------	------

- a : 研修基幹施設を中心に研修する基本的なコース。最終年次に大学で後輩の指導を行うことにより自らの不足している部分を発見し補う。連携施設は原則として1年ごとで異動するが、諸事情により2年間同一施設もあり得る。
- b : ただちに皮膚科専門医として活躍できるように連携施設にて臨床医としての研修に重点をおいたコース。
- c : 基幹病院を重点にしたコース。皮膚外科または美容皮膚科を重点的に研修したい医師向け。
- d : c のバリエーション。連携の時期を後半においてあり、1人で手術が出来る環境を可能とした、皮膚外科医を目指すコース。
- e : 連携病院での研修を前半においたコースであり、初期研修病院からの異動が難しい医師向け。研修の始点が連携病院であることが特徴である。
- f : 研修後半に、博士号取得のための研究を開始するプログラム。博士号取得の基本的コース。
- g : f より、遭遇する頻度の多い疾患群を主に研修した後に博士号取得をめざすコース。

2. 研修方法

1) 滋賀医科大学医学部皮膚科

外来 : 診察医に陪席し、外来診察、皮膚科的検査、治療を経験する。

病棟 : 病棟医長のもと数チームの診療チームを構成する。専攻医は指導医のもと担当患者の診察、検査、外用療法、手術手技を習得する。毎週の病棟回診で受け持ち患者のプレゼンテーションを行い、評価を受ける。毎週の病理カンファレンスで症例発表を行い、評価を受ける。

抄読会では1回/月 論文を紹介する。皮膚科学会主催の必須の講習会を受講し、年に2回以上筆頭演者として学会発表を行う。また、皮膚科関連の学会、学術講演会、セミナーに積極的に参加する。病院が実施する医療安全講習会に定期的に参加する。年に1編以上筆頭著者で論文を作成することを目標とする。

研修の週間予定表

	月	火	水	木	金	土	日
午前	外来	外来	外来	外来	外来		
午後	病棟 回診	病棟	病棟 手術	病棟 病理	病棟 手術		

	術前カンファレンス 病棟カンファレンス			医局カンファレンス 症例カンファレンス			
--	------------------------	--	--	------------------------	--	--	--

2) 連携施設

社会医療法人誠光会淡海医療センター皮膚科：

指導医の下、地域医療の中核病院の勤務医として、第一線の救急医療、処置、手術法を習得する。滋賀医科大学医学部皮膚科のカンファレンス、抄読会に週1回ないし月1回参加し学習する。必須の講習会を受講し、年に2回以上筆頭演者として学会発表を行う。皮膚科関連の学会、学術講演会、セミナーに積極的に参加する。病院が実施する医療安全講習会と感染予防講習会に定期的に参加する。

研修の週間予定表

	月	火	水	木	金	土	日
午前	外来	外来	外来	外来	外来	外来	
午後	外来 病棟	外来 病棟	外来 手術 カンファレンス	手術	病棟 外来		

公立甲賀病院皮膚科：

指導医の下、地域医療の中核病院の勤務医として、第一線の救急医療、処置、手術法を習得する。滋賀医科大学医学部皮膚科のカンファレンス、抄読会に月1回参加し学習する。皮膚科学会主催の必須の講習会を受講し、年に2回以上筆頭演者として学会発表を行う。皮膚科関連の学会、学術講演会、セミナーに積極的に参加する。病院が実施する医療安全講習会と感染予防講習会に定期的に参加する。

研修の週間予定表

	月	火	水	木	金	土	日
午前	外来	外来	外来	手術	外来		
午後	病棟 褥瘡回診	病棟 処置外来	病棟 処置外来	病棟 カンファレンス	病棟 処置外来		

彦根市立病院皮膚科：

指導医の下、地域医療の中核病院の勤務医として、第一線の救急医療、処置、手術法を習得する。滋賀医科大学医学部皮膚科のカンファレンス、抄読会に週1回な

いし月 1 回参加し学習する。必須の講習会を受講し、年に 2 回以上筆頭演者として学会発表を行う。皮膚科関連の学会、学術講演会、セミナーに積極的に参加する。病院が実施する医療安全講習会と感染予防講習会に定期的に参加する。

研修の週間予定表

	月	火	水	木	金	土	日
午前	外来	外来	外来	外来	外来		
午後	病棟 外来	病棟 外来 手術	病棟 外来	病棟 外来	病棟 外来		

国立病院機構東近江総合医療センター皮膚科：

指導医の下、地域医療の中核病院の勤務医として、第一線の救急医療、処置、手術法を習得する。滋賀医科大学医学部皮膚科のカンファレンス、抄読会に週 1 回ないし月 1 回参加し学習する。必須の講習会を受講し、年に 2 回以上筆頭演者として学会発表を行う。皮膚科関連の学会、学術講演会、セミナーに積極的に参加する。病院が実施する医療安全講習会と感染予防講習会に定期的に参加する。

研修の週間予定表

	月	火	水	木	金	土	日
午前	外来	外来	外来	外来	外来 褥瘡回診		
午後	病棟	病棟 カンファレンス	手術	病棟	病棟		

特定医療法人敬愛会東近江敬愛病院皮膚科：

ケアミックス型の病院の皮膚科医に必要な知識と技術を習得できる病院である。慢性期にある入院管理を学ぶと同時に、救急医療を合わせて学ぶ。滋賀医科大学医学部皮膚科のカンファレンス、抄読会に週 1 回ないし月 1 回参加し学習する。必須の講習会を受講し、年に 2 回以上筆頭演者として学会発表を行う。皮膚科関連の学会、学術講演会、セミナーに積極的に参加する。病院が実施する医療安全講習会と感染予防講習会に定期的に参加する。

研修の週間予定表

	月	火	水	木	金	土	日
--	---	---	---	---	---	---	---

午前	外来	なし	外来	外来	外来	外来	
午後	病棟 褥瘡回診	なし	病棟	手術	病棟 褥瘡回診	病棟	

京都府立医科大学皮膚科

外来：診察医に陪席し、外来診察、皮膚科的検査、治療を経験する。

病棟：チームリーダーのもと3チームの診療チームを構成する。専攻医は指導医のもと担当患者の診察、検査、外用療法、手術手技を習得する。毎週の病棟回診で受け持ち患者のプレゼンテーションを行い、評価を受ける。毎週の病理カンファレンスで症例発表を行い、評価を受ける。

抄読会では月に1回程度英文論文を紹介する。皮膚科学会主催の必須の講習会を受講し、年に2回以上筆頭演者として学会発表を行う。また、皮膚科関連の学会、学術講演会、セミナーに積極的に参加する。病院が実施する医療安全研修会、感染対策研修会に定期的に参加する。年に1編以上筆頭著者で論文を作成することを目標とする。さらに、研修群全体での症例検討会も定期的に開催する。

研修の週間予定表

	月	火	水	木	金	土	日
午前	外来	外来	外来 手術	外来 手術	外来		
午後	病棟 手術 検査	検査 カンファレンス 抄読会	病棟	病棟 手術 検査	病棟		

近江八幡市立総合医療センター皮膚科：

指導医の下、地域医療の中核病院の勤務医として、第一線の救急医療、処置、手術法を習得する。京都府立医科大学皮膚科のカンファレンス、抄読会に週1回参加し学習する。必須の講習会を受講し、年に2回以上筆頭演者として学会発表を行う。皮膚科関連の学会、学術講演会、セミナーに積極的に参加する。病院が実施する医療安全講習会に定期的に参加する。

研修の週間予定表

	月	火	水	木	金	土	日
午前	外来 病棟	外来 褥瘡回診	外来	外来 褥瘡回診	外来		

午後	手術 病棟	外来、病棟 フットケア回診	外来、病棟 カンファレンス	手術 病棟	外来 病棟		
----	----------	------------------	------------------	----------	----------	--	--

市立大津市民病院皮膚科：

指導医の下、地域医療の中核病院の勤務医として、第一線の救急医療、処置、手術法を習得する。必須の講習会を受講し、年に2回以上筆頭演者として学会発表を行う。皮膚科関連の学会、学術講演会、セミナーに積極的に参加する。病院が実施する医療安全講習会に定期的に参加する。

研修の週間予定表（通年勤務医の予定表）

	月	火	水	木	金	土	日
午前	外来/ 手術(形 成外科)	病棟/ 外来	病棟/ 外来	病棟/ 外来	病棟/ 外来		
午後	外来	病棟 カンファレンス	外来 褥瘡回診 入院患者 回診	外来 手術	外来 カンファレンス		

京都大学医学部皮膚科

外来：診察医に陪席し、外来診察、皮膚科的検査、治療を経験する。

病棟：病棟医長のもと数チームの診療チームを構成する。専攻医は指導医のもと担当患者の診察、検査、外用療法、手術手技を習得する。毎週の病棟回診で受け持ち患者のプレゼンテーションを行い、評価を受ける。毎週の病理カンファレンスで症例発表を行い、評価を受ける。

抄読会では1回/月、英文論文を紹介する。皮膚科学会主催の必須の講習会を受講し、年に2回以上筆頭演者として学会発表を行う。また、皮膚科関連の学会、学術講演会、セミナーに積極的に参加する。病院が実施する医療安全講習会に定期的に参加する。年に1編以上筆頭著者で論文を作成することを目標とする。

研修の週間予定表

	月	火	水	木	金	土	日
午前	外来 手術	外来	外来	外来	外来		
午後	病棟 回診	病棟 病理	病棟 カンファレンス	病棟 手術	病棟 手術		

			回診				
--	--	--	----	--	--	--	--

大津赤十字病院皮膚科：

指導医のもとで、地域医療の中核病院の勤務医として第一線の救急医療、処置、手術などを習得する。カンファレンス、抄読会を週1回行い皮膚科学全般にわたり学習する。さらに病理部との合同カンファレンスを週1回、形成外科との合同カンファレンスを月1回行うことで病理診断や手術症例についても各専門医の指導のもとで学習する。皮膚科学会主催の必須の講習会を受講し、年に2回以上筆頭演者として学会発表を行い、論文を年に1編以上発表する。皮膚科関連の学会、学術講演会、セミナーには積極的に参加し、病院が実施する医療安全講習会にも定期的に参加する。

研修の週間予定表

	月	火	水	木	金	土	日
午前	外来	外来	外来	外来	外来		
午後	病棟 手術	病棟 外来 手術	病棟 外来 手術	病棟 外来 褥瘡回診	病棟 カンファレンス	宿直※	宿直※

※宿直は1回／月を予定

長浜赤十字病院皮膚科：

指導医の下、地域医療の中核病院の勤務医として、第一線の救急医療、処置、手術法を習得する。週1回のカンファレンスおよび月1回の近隣の皮膚科とのカンファレンスに参加し学習する。皮膚科学会主催の必須の講習会を受講し、年に2回以上筆頭演者として学会発表を行う。皮膚科関連の学会、学術講演会、セミナーに積極的に参加する。病院が実施する医療安全講習会に定期的に参加する。

研修の週間予定表

	月	火	水	木	金	土	日
午前	外来	外来	処置	外来	外来		
午後	病棟 カンファレンス	病棟	病棟	病棟 外来 カンファレンス	病棟 手術		

※病棟管理当直3～4回／月あり

地域医療機能推進機構中京病院皮膚科：

愛知県内でも有数の 18 病床数をもつ。年間の皮膚科入院患者数は約 700 例で、膠原病精査と治療、皮膚良性・悪性腫瘍手術と化学療法、アトピー性皮膚炎、乾癬の教育入院をはじめとして、重症薬疹、帯状疱疹、蜂窩織炎、壊死性筋膜炎など緊急疾患にも対応する。膠原病症例は約 800 例で、全身性エリテマトーデス、強皮症、皮膚筋炎、混合性結合組織病、関節リウマチ、シェーグレン症候群、ベーチェット病、サルコイドーシス、成人スティル病の症例も多数あり。また、皮膚外科の年間手術例は約 750 例で再発防止と整容面の両者を考慮した手術を積極的に施行。皮膚悪性腫瘍は手術治療（90～100 例/年）を第一選択とし、化学療法を組み合わせた集学的治療を行っている。

研修の週間予定表

	月	火	水	木	金	土	日
午前	手術 病棟	外来	手術	病棟	外来	病棟	
午後	病棟 回診	外来 入院カンファ レンス	病棟 病理カンファ レンス	手術 外来カンファ レンス	病棟 回診		

地域医療機能推進機構星ヶ丘医療センター皮膚科：

指導医の下、外来診療、入院症例、他科からの対診症例、救急症例から実臨床を学ぶことが出来る。臨床カンファレンス、褥瘡カンファレンスなどを通じて個々の症例の理解を深めることが可能である。年に数回の学会発表をはじめ、学会、カンファレンス、地域の医師との症例検討会などにも参加して研鑽を積む事が出来る。院内研修会では知識のブラッシュアップが可能である。

研修の週間予定表

	月	火	水	木	金	土	日
午前	外来 生検処置	外来 生検処置	外来 生検処置	外来 生検処置	外来 生検処置		
午後	病棟 回診カンファ	病棟	病棟	病棟 病理カンファ	病棟		

国立病院機構鹿児島医療センター皮膚腫瘍科・皮膚科：

指導医の下、皮膚腫瘍に関して日本有数の症例数を有する病院の勤務医として、皮膚外科手術や処置を効率的に習得する。皮膚科学会主催の必須の講習会を受講し、年に2回以上筆頭演者として学会発表を行う。皮膚科関連の学会、学術講演会、セミナーに積極的に参加する。病院が実施する医療安全講習会に定期的に参加する。

研修の週間予定表

	月	火	水	木	金	土	日
午前	外来	手術	外来	手術	外来		
午後	手術 病棟	手術 病棟	病棟 カンファレンス	手術 病棟	手術 病棟		

3) 大学院(臨床)

基本的に日中は大学病院にて1)と同様にフルタイムで研修し、また、社会人大学院生にあつては、日中は本人の所属する病院でフルタイムに研修し、17時以降、大学院講義出席、臨床研究、論文作成等を行う。

4) 大学院(研究)

皮膚科以外の臨床教室、基礎教室にて皮膚科に関連する研究を行う。この期間、大学病院での研修および達成度評価・年次総合評価は不要とする。

5) 研修連携施設

日野記念病院皮膚科、地域医療機能推進機構滋賀病院皮膚科では現在指導医が不在であるが、地域医療を担う重要な病院である。皮膚科医として独立した診療が出来るよう経験と知識をより深化するため専門研修のうち1年間に限り、1人での診療を行うことがある。また、大学病院および近隣の指導医のいる研修連携施設(地域医療推進機構滋賀病院にあつては草津総合病院)に患者紹介や診療相談を行うことにより、病診連携を習得する。

研修の年間予定表

月	行事予定
4	1年目：研修開始。皮膚科領域専門医委員会に専攻医登録申請を行う。 2年目以降：前年度の研修目標達成度評価報告を行う。

5	
6	日本皮膚科学会総会（開催時期は要確認）
7	皮膚科専門医受験申請受付
8	研修プログラム管理委員会を開催し、専攻医の研修状況の確認を行う（開催時期は年度によって異なる）
9	
10	
11	
12	3月末で研修終了見込み：皮膚科専門医認定試験実施
1	
2	
3	当該年度の研修終了し、年度評価を行う。 5年目：研修の記録の統括評価を行う。 試験合格後：皮膚科専門医認定

K. 各年度の目標：

- 1、2年目：主に滋賀医科大学医学部皮膚科において、カリキュラムに定められた一般目標、個別目標（1. 基本的知識 2. 診療技術 3. 薬物療法・手術・処置技術・その他治療 4. 医療人として必要な医療倫理・医療安全・医事法制・医療経済などの基本的姿勢・態度・知識 5. 生涯教育）を学習し、経験目標（1. 臨床症例経験 2. 手術症例経験 3. 検査経験）を中心に研修する。
 - 3 年 目：経験目標を概ね修了し、皮膚科専門医に最低限必要な基本的知識・技術を習得し終えることを目標にする。
 - 4、5年目：経験目標疾患をすべて経験し、学習目標として定められている難治性疾患、稀な疾患など、より専門性の高い疾患の研修を行う。3年目までに習得した知識、技術をさらに深化・確実なものとし、生涯学習する方策、習慣を身につけ皮膚科専門医として独立して診療できるように研修する。専門性を持ち臨床に結びついた形での研究活動に携わり、その成果を国内外の学会で発表し、論文を作成する。さらに後輩の指導にもあたり、研究・教育が可能な総合力を持った人材を培う。
- 毎 年 度：日本皮膚科学会主催教育講習会を受講する。また、京滋地方会には可能な限り出席する。各疾患の診療ガイドラインを入手し、診療能力の向上に努める。PubMed などの検索や日本皮膚科学会が提供する E-ラーニングを受講し、自己学習に励む。

L. 研修実績の記録：

1. 「研修の記録」を、日本皮膚科学会ホームページからダウンロードし、利用すること。
2. 「研修の記録」の評価票に以下の研修実績を記録する。
経験記録（皮膚科学各論、皮膚科的検査法、理学療法、手術療法）、講習会受講記録（医療安全、感染対策、医療倫理、専門医共通講習、日本皮膚科学会主催専攻医必須講習会、専攻医選択講習会）、学術業績記録（学会発表記録、論文発表記録）。
3. 専門医研修管理委員会はカンファレンスや抄読会の出席を記録する。
4. 専攻医、指導医、総括プログラム責任者は「研修の記録」の評価票を用いて下記（M）の評価後、評価票を毎年保存する。
5. 「皮膚科専門医研修マニュアル」を、日本皮膚科学会ホームページからダウンロードし、確認すること。特に p. 15～16 では「皮膚科専攻医がすべきこと」が掲載されているので注意すること。

M. 研修の評価：

診療活動はもちろんのこと、知識の習熟度、技能の修得度、患者さんや同僚、他職種への態度、学術活動などの診療外活動、倫理社会的事項の理解度などにより、研修状況を総合的に評価され、「研修の記録」に記録される。

1. 専攻医は「研修の記録」のA. 形成的評価票に自己評価を記入し、毎年3月末までに指導医の評価を受ける。また、経験記録は適時、指導医の確認を受け確認印をもらう。
2. 専攻医は年次総合評価票に自己の研修に対する評価、指導医に対する評価、研修施設に対する評価、研修プログラムに対する評価を記載し、指導医に提出する。指導医に提出しづらい内容を含む場合、研修プログラム責任者に直接口頭、あるいは文書で伝えることとする。
3. 指導医は専攻医の評価・フィードバックを行い年次総合評価票に記載する。また、看護師などに他職種評価を依頼する。以上を研修プログラム責任者に毎年提出する。
4. 研修プログラム責任者は、研修プログラム管理委員会を開催し、提出された評価票を元に次年度の研修内容、プログラム、研修環境の改善を検討する。
5. 専攻医は研修修了時までに全ての記載が終わった「研修の記録」、経験症例レポート15例、手術症例レポート10例以上をプログラム統括責任者に提出し、総括評価を受ける。
6. 研修プログラム責任者は、研修修了時に研修到達目標のすべてが達成されていることを確認し、総括評価を記載した研修修了証明書を発行し、皮膚科領域専

門医委員会に提出する。

N. 研修の休止・中断、異動：

1. 研修期間中に休職等により研修を休止している期間は研修期間に含まれない。
2. 研修期間のうち、産休・育休に伴い研修を休止している期間は最大6ヶ月までは研修期間に認められる。なお、出産を証明するための添付資料が別に必要となる。
3. 諸事情により本プログラムの中断あるいは他の研修基幹施設のプログラムへ異動する必要がある場合、すみやかにプログラム統括責任者に連絡し、中断あるいは異動までの研修評価を受けること。

O. 労務条件、労働安全：

労務条件は勤務する病院の労務条件に従うこととする。

給与、休暇等については各施設のホームページを参照、あるいは人事課に問い合わせること。なお、当院における当直はおおむね3～4回/月程度である。

2023年4月18日

滋賀医科大学医学部皮膚科
専門研修プログラム統括責任者
藤本 徳毅